

みずほマーケット・トピック(2015 年 9 月 24 日)

欧州難民危機は統合深化の試金石に

欧州では引き続き難民危機を巡る騒動が収まっていない。22 日の臨時内相・法相理事会では義務的ではなく自主的という形にはなったものの 12 万人の難民受け入れ分担案が賛成多数で可決された。これほど強い反対がある問題で多数決合意に持ち込まれるのは異例。禍根を残してまで対策を急いだのは、それだけ事態が切迫しているからだろう。また、23 日には臨時非公式 EU 首脳会議が招集されている。欧州国境沿岸警備隊や難民流入の影響の大きい加盟国(hotspots)に対し EU として共通の対策チームを設置するなどの案が浮上している。総じて国境管理の権限が EU レベルに割譲される色合いを含んでおり、波乱含み。債務危機を経て EU レベルの欧州安定メカニズム(ESM)や銀行同盟の議論に火が点いたように、難民危機を経て鬼門であった政治外交分野での統合を促せるかが注目される。難民危機は EU の統合・深化にとっての試金石に。

～ドラギ議会証言も年内緩和観測は消えず～

東京市場が休場となった 9 月 21～23 日の為替相場は小動きで、ドル/円相場は 120 円挟みで殆ど横這いとなった。昨晚からの動きではドラギ ECB 総裁が定例の欧州議会に対する証言の中で追加緩和に慎重な発言を行ったとの受け止めからユーロが買い戻されている。より具体的に、ドラギ総裁は「新興市場の成長鈍化が一時的なものなのか、それとも永続的なものなのかを判断し、国際商品市況の下落をもたらした主因を評価するにあたって、より多くの時間が必要」と述べている。その上で「我々は注意深く全ての関連情報とそれがもたらす物価安定への影響を監視する」と述べており、この言いぶりを踏まえる限り、少なくとも次回会合(10 月 22 日)のアクションは期待できないだろう。だが、ユーロ圏消費者物価指数(HICP)のダウンサイドリスクは商品安とユーロ高を受けて明らかに強まっており、年内に何らかの動きが必要になる可能性は高い。

～難民危機:繰り返されるとどこかで見た風景～

ところで欧州と言えば、引き続き難民危機を巡る騒動が収まっていない。EU は 22 日、臨時内相・法相理事会を開催し、12 万人の難民受け入れ分担案を再協議した。当初の義務化は回避され、自主的という形にはなったものの、12 万人の受け入れについて賛成多数で可決している。賛成多数ゆえ満場一致ではなく、チェコ、スロバキア、ルーマニア、ハンガリーが反対票を投じ、フィンランドが棄権している。東欧諸国からの反対は根強く、フィツォ・スロバキア首相からは自身が現職にとどまっている限り、義務的受け入れは実施しない旨が表明されるなど頑なである。ハンガリーに至ってはセルビアの国境付近で暴徒化した難民に対し、警官隊が催涙ガスを使用して事態鎮圧に踏み切る動きなども見られており、到底、全加盟国で義務的受け入れが同意される土壌ではない。

制度として認められているとはいえ、これほど強い反対がある問題で多数決合意に持ち込むのは稀である。禍根を残してまで対策を急いだのは、それだけ事態が切迫しているからだろう。日次 1

万人超のペースで難民が押し寄せる以上、債務問題のように先送りを重ねて時間を稼ぐ余裕はない。また、同時にこの問題のきっかけを作ったメルケル独首相の決断に対しては連立与党内部からも批判が出ており、ドイツの独断的価値観が域内外で不協和音を起こすという債務危機で見た風景が難民危機でも繰り返されている。ドイツからは難民受け入れを拒否する東欧諸国に対し、EU 構造基金からの補助金支出をカットすべきとの声も出ている模様だが、金を払ってこの東西問題が解決するのであれば、そこが落としどころになるだろう。

～さらなる統合への試金石:欧州委員会提案について～

そして 23 日には臨時非公式 EU 首脳会議が招集されている(本稿執筆時点では声明は未発表)。上述の会合にて 12 万人の分担案が一区切りを得たことを受け、難民危機対応は次の段階に移ることになる。首脳会議前に欧州委員会は今後 6 か月の優先課題を公表しており、対策の焦点が「難民割り当て」から「実務的 (operational)、財政的 (financial) そして法律的 (legal) な性質 (nature)」の手段を検討する段階に移行したことが謳われている。

具体的に、実務面では難民流入の玄関口となる国々 (イタリアやハンガリー、hotspots と表現) について移民管理サポートチームを配置することや欧州対外国境管理協力機関 (Frontex) による共同サポートなどが提案されている。財政面では難民流入により強い影響を受ける加盟国に対し緊急基金を 1 億ユーロ増額すること (2015 年中)、Frontex や欧州庇護支援事務所 (EASO)、欧州刑事警察機構 (Europol) に対する資金を 1300 万ユーロ増額すること、そして 2016 年については強い影響を受ける加盟国、Frontex、EASO、Europol に対する資金を 6 億ユーロ増額することなどが提案されている。また、法律面では今年 12 月に欧州国境沿岸警備隊 (a European Border and Coast Guard) の創設や、Frontex の責務拡大が提案される見通しとなっている。

総じて国境管理の権限が EU レベルに割譲される色合いを含んでおり、これもすんなり合意に至ることは考え難い。例えば、実務面で EU から移民管理サポートチームが送り込まれたり、Frontex の助力を得たりといった政策は欧州共通の難民管理システム構築という大義はあるものの、受け入れる国にとってみれば自国の国境管理能力が不十分との受け止めにも繋がり得る。債務危機を経て、EU レベルの欧州安定メカニズム (ESM) や銀行同盟の議論に火が点いたように、難民危機が鬼門であった政治外交分野での統合を促せるかが注目される。難民危機は EU が現状以上の統合・深化に踏み込めるかどうかの試金石とも言えるだろう。

～EU 崩壊があるならば・・・～

EU にとっては受難の年である (金融危機後、受難の年でなかった方が少ないかもしれないが)。ギリシャ危機が 7 月に収束し、ようやく一息つけるところに難民危機が発生し、足許ではドイツ自動車最大手の不正問題が欧州株式市場全体を下押ししている。先週 20 日に開催されたギリシャ総選挙では波乱なくチプラス首相の続投が決まったものの、難民危機がこのまま発展していけば、元より勢いを得ていた右派ポピュリズムが域内で支持を得やすくなるだろう。債務危機にしても、難民危機にしても、ドイツ的価値観の押し売りがそれぞれ南北及び東西の対立のトリガーとなってきたことを思えば、昨今のドイツ脅威論はあながち的外れではないようにも思えてくる。

もちろん、ドイツが何らかの政治的価値観を一方的に加盟国へ強要しているわけではないため、

E・トッド¹の主張するような帝国論や陰謀論までの警戒は行き過ぎに思われる。ハンス・クンナニの『ドイツ権力のパラドックス(The Paradox of German Power)』²で話題となったように、ドイツは欧州のどの国よりも大きい、一国で覇権を得るほどには大きくない「半覇権」国家と評される。そのような国が欧州の中央に位置することが周囲の不安を煽り、軋轢を度々生んできた(いわゆるそれが「ドイツ問題」である)。それゆえにドイツ帝国論は昔からあるが、それがどの程度の本気度で語られているものなのかは幅を持って見る必要がある。

とはいえ、ドイツのやり方に賛同できないならば「EU の一員として認めない(例えば格差是正のための補助金も与えないし、債務危機になっても救わないなど)」という構図があまりにも鮮明化してくると、各国政局は必然、右傾化してくるだろう。緊縮財政時のように国民に広く浅く金銭負担を求める経路でも EU への嫌悪感は随分深まった。これが難民の強制的受け入れという形を伴った場合、より重い負担感を各国国民が覚えることは想像に難くない。その意味で難民危機が域内に掛ける遠心力は債務危機のそれよりも大きいように思われる。結局は現状維持に掛かるコストの方が遥かに安上がりであることを踏まえれば、筆者は安易な EU 崩壊論に与するつもりはない。だが、仮にそういった悲観シナリオが現実化するとしたら過去 5 年で見えてきたような経済・金融危機ではなく、案外今回の難民危機になるのではないかと感じている。

以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

¹ エマニュエル・トッド『「ドイツ帝国」が世界を破滅させる 日本人への警告』文春新書、2015 年 5 月

² Hans Kundnani『The Paradox of German Power』Oxford University Press, Jan.2015

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年9月18日	週末版(FOMCを終えて(9月16～17日開催分)～糊代論への末練がましい執着～)
2015年9月17日	日銀4～6月期資金循環統計について
2015年9月16日	判断を迫られる通貨・金融政策～株価か実質賃金か～
2015年9月15日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？～その②～
2015年9月14日	ポスト債務危機の様相を呈してきた欧州難民危機
2015年9月11日	週末版(ドル/円相場の水準感～上値と下値の目途の考え方～)
2015年9月10日	ユーロ圏経済の現状と展望及びユーロ相場について
2015年9月8日	本邦7月国際収支統計と円相場の需給について
2015年9月7日	アンカラG20を終えて～分があるのはどちらの主張か～
2015年9月4日	週末版(ECB理事会を終えて～FOMCに先手を打ったECB～)
2015年9月3日	ECB理事会プレビュー～APP延長示唆か？～
2015年9月2日	国際金融のトリレンマから読む中国の外貨準備減少
2015年8月28日	週末版
2015年8月27日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」②
2015年8月26日	混乱を受けたドル/円相場の見直し改定について【暫定】
2015年8月25日	円相場の観点で見つめ直す日経平均株価の水準感
2015年8月24日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」
2015年8月21日	週末版(FOMC議事要旨(7月28～29日開催分)を受けて～「断固たる覚悟」は見えず～)
2015年8月19日	本邦7月貿易統計を受けて
2015年8月17日	日米欧4～6月期GDPを受けて
2015年8月14日	週末版(ECB理事会議事要旨(7月15～16日開催分)について～no reason for complacency～)
2015年8月13日	人民元切り下げとそれに付随する論点～その②～
2015年8月12日	人民元切り下げとそれに付随する論点
2015年8月11日	2015年上半期における円相場の基礎的需給環境
2015年8月10日	2016年日銀金融政策決定会合日程を受けて
2015年8月7日	週末版
2015年7月31日	週末版
2015年7月30日	FOMCを終えて～吹けば飛ぶような利上げ期待～
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年6月分)
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状と展望について～購買力平価(PPP)や実質実効為替相場(REER)からの評価～)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性を考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて～見直されるLLR機能～)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況(15年3月末)から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本当に本当の最後の会合～不安な「ギリシャ後の展開」～)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて～勝負の2週間～
2015年7月3日	週末版(拡大資産購入プログラム(APP)の現状と展望について～ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針～)
2015年7月2日	外貨準備構成通貨の内訳(15年3月末時点)
2015年7月1日	ギリシャ返済遅延と離脱に係る損失試算について
2015年6月29日	一連のギリシャ動向について～デフォルトはメインシナリオへ～
2015年6月26日	週末版(2015年上半期を終えて～素直な政策金利相場だった上半期～)
2015年6月25日	約18年半ぶりの株高を受けて～実感はあるか？～
2015年6月24日	ユーロ圏、ギリシャ以外の年内の火種は？
2015年6月23日	何故ユーロ相場は底堅いか？
2015年6月22日	ギリシャ向けエクスポージャーの現状把握
2015年6月19日	週末版(ユーロ圏財務相会合を終えて～舞台は首脳級へ引き継ぎ～)
2015年6月18日	FOMC及びSEPを受けて(6月16～17日開催分)
2015年6月16日	米4月対内・対外証券投資(TIC)レポートについて
2015年6月15日	当面のギリシャ情勢～考え得るシナリオや離脱後の相場～
2015年6月12日	週末版(黒田総裁発言の解釈～実質実効為替相場を考える～)
2015年6月10日	ユーロ圏1～3月期GDP(2次推計値)について
2015年6月9日	基礎的需給環境の確認～4月国際収支統計を受けて～
2015年6月8日	本当にFRBの早期利上げは可能になったのか？
2015年6月5日	週末版(ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退：その②～)
2015年6月4日	ECB理事会を終えて～ボラティリティ許容発言の意図～
2015年6月3日	2年ぶりの実質賃金上昇～忍び寄る交易損失～
2015年6月2日	ECB理事会プレビュー～「完全なる実施」の強調～
2015年6月1日	G7を終えて～ドル高、交差する三極の思惑～
2015年5月29日	週末版
2015年5月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年4月分)
2015年5月27日	「7年10か月ぶりの円安・ドル高」を受けて
2015年5月26日	ドル/円上昇をもたらした2つの要因～従前の想定は変わらず～
2015年5月25日	ECB理事会議事要旨(4月15～16日開催分)について
2015年5月22日	週末版(ユーロ圏に戻るリアルマネー～証券投資動向から占うユーロ相場～)
2015年5月21日	クーレ発言の真意とQEの実施状況について
2015年5月20日	本邦1～3月期GDPについて～消費&在庫が下支え～
2015年5月19日	足許のギリシャ情勢について～6月返済も危ういか～
2015年5月18日	ユーロ相場の急騰について～「壮大な投機」の後退～
2015年5月15日	当面のギリシャ情勢の整理～何度目かの佳境～
2015年5月14日	ユーロ圏1～3月期GDP(一次推計値)について
2015年5月13日	本邦3月国際収支統計と円相場見通しについて
2015年5月12日	本邦の雇用・賃金情勢について～完全雇用到達後の世界～
2015年5月11日	英国総選挙と今後についての論点整理
2015年5月8日	QQEの効果検証～「金利への回帰」の布石か～
2015年5月7日	欧州委員会春季経済予測について
2015年5月1日	週末版(日銀政策決定会合を終えて～勝負の秋～)
2015年4月30日	米1～3月期GDP及びFOMCについて
2015年4月28日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？
2015年4月27日	最近のギリシャ情勢に関する整理
2015年4月24日	週末版(日銀政策決定会合プレビューその②～参院財政金融委員会での総裁発言を受けて～)
2015年4月23日	日銀政策決定会合プレビュー
2015年4月22日	本邦3月貿易統計～黒字転化をどう評価するか～
2015年4月20日	重要な論点は「いつやるか」から「何回できるか」
2015年4月17日	週末版(ECB、PSPFの残高状況に関して～「12%」から何を読み取るか？～)
2015年4月16日	ECB理事会を終えて～与信改善を強調～
2015年4月15日	通貨政策の変節と日銀～浜田参与発言を受けて～
2015年4月14日	ECB理事会プレビュー～早くも聞こえ始めたtapering～